

R アジア人材育成プロジェクト LEAD ASEA 2019



主催： / / / / /



日中学生交流連盟



国際交流基金
日中交流センター



協力：

株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル

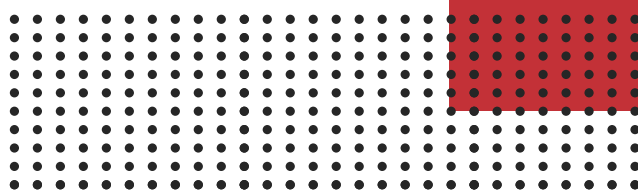
株式会社ニトリ、株式会社三菱UFJ銀行、外務省

日本電気株式会社、日本放送協会

ハウス食品グループ本社株式会社

パナソニック株式会社、藤田観光株式会社

「30 年後に続く、 9 日間の出会い」



日中學生交流連盟



JAPAN FOUNDATION

国際交流基金
日中交流センター



この報告書の著作権は日中學生交流連盟、及び国際交流基金日中交流センターに帰属します。
内容の全部または一部を複製し利用することを禁じます。

- 2020年 3月発行

Content

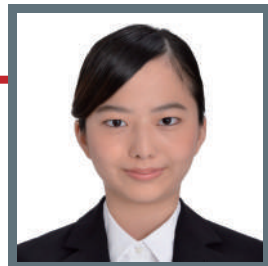
目次

- 00. 挨拶 … 1
- 01. 事業内容 … 2
- 02. 活動内容 … 3～8
- 03. 活動を終えて … 9～16
- 04. 協力企業・機関一覧 … 17
- 05. 主催団体紹介 … 18～19
- 06. 学生実行委員紹介 … 20～21
- 07. リードアジア 2020 へのご協力・ご協賛のお願い … 22

「30 年後に続く、
9 日間の出会い」



日中学生交流連盟リードアジア実行委員長 古作 優美



日中学生交流連盟リードアジア実行委員会が企画運営するこのリードアジアプログラムも、今年で7年目を迎えることとなりました。日中青少年交流推進年となった今年に、まさに日中青少年が熱く議論を交わし交流する本プログラムを、無事終えることができましたのは、ひとえにご協力くださいました企業や団体、外務省をはじめとする関係者の皆様のおかげであります。ここにあらためて厚くお礼申し上げます。

本プログラムは、日本と中国約50余名の学生が代々木のオリンピックセンターで8泊9日間寝食を共にし、その間に企業訪問や文化交流等の多面的なアプローチから国境を超えた相互理解を実現することを目的に2013年に企画されました。

今年度は、将来まで本プログラムを通して出会い、繋がりが将来まで続いていくように中国建国100周年となる2049年をお借りし「30年後に続く、9日間の出会い」をコンセプトに掲げました。これまでも毎年非常に高い満足度を頂いている中で、今年は、さらに1つ1つのコンテンツの質を高めようと、実行委員内で議論を重ね、一丸となって取り組んでまいりました。そしてプログラムでは今年も多種多様なバックグラウンドを持った参加学生が一同に会し、何度もディスカッションを重ね、絆を深める姿を見ることができましたことを、大変嬉しく思います。

リードアジア2019プログラム参加学生の皆が、本年度のコンセプトである「30年後に続く、9日間の出会い」を体現すべく、今回の学びを糧にしてアジア、そして世界で活躍するリーダーとして、日中関係を動かしていく人材になることを願うと共に、これからも本プログラムがきっかけとなり、学生間の交流の輪が一層拡大していくことを切に願っております。



国際交流基金日中交流センター所長 堀 俊雄

国際交流基金日中交流センターは2006年の設立以来、一貫して日中の青少年交流の事業実施・活動支援を行ってきました。日中学生交流連盟との共催事業である「リードアジア」への支援もそのひとつです。2013年に開始した本事業は今年で7年目に入りました。「リードアジア」に集った日中の大学生たちは、延べ350名近くを数え、初期の参加者はすでに社会人となり、様々な業界で活躍しています。

今年の「リードアジア」プログラムでは、参加人数は45名（日本人学生22名、中国本土から来日した中国人学生12名、日本で留学中の中国人学生11名）、学生スタッフ11名にのぼりました。心連心プログラム（中国高校生長期招へい事業）の卒業生も参加し、交流の輪がますます広がっている感があります。

本プログラムに参加した学生たちは、8泊9日の合宿形式の日程で代々木のオリンピックセンターで寝食を共にしながら、本事業実現に至るまでのさまざまな困難を克服し、企業訪問やディスカッション、勉強会等を実践してきました。

今年のプログラムでは企業8社と外務省への訪問が実現しました。参加者たちは企業訪問等を通じて、活発な議論をぶつけ合う中で、国境や価値観の違いを超えて相互理解を深め、新たな視野を開くことができたものと確信しています。

「日中青少年交流推進年」でもある今年、無事7周年を終えることができましたのは、ひとえにこのプログラムにご協力いただきました企業や団体、外務省をはじめとする関係者の皆様のおかげであります。ここにあらためて厚く御礼申し上げます。参加した学生たちが将来、日中両国をはじめ、本事業タイトルのとおり「アジアをリード」する人材に、ひいては世界で活躍する人材に育ってほしいと期待すると共に、これからも日中両国の多くの方の賛同を得て、本事業の活動の輪が広がっていくことを願っています。



夏季プログラム

実施日程：2019年8月17日～25日

開催地：東京

共催：日中学生交流連盟

国際交流基金日中交流センター

参加人数：45人

日本人学生：22人

在日中国人留学生：11人

中国本土学生：12人

講演会

8月18日（日）PM

佐藤航平様

8月21日（水）AM

田辺智彦様

（株式会社三菱UFJ銀行）

訪問企業・省庁（50音順）

株式会社JTB グローバルマーケティング＆トラベル、
株式会社ニトリ、外務省、日本電気株式会社、日本放送協会
ハウス食品グループ本社株式会社、パナソニック株式会社、藤田観光株式会社

参加大学一覧

<日本人>

早稲田大学、滋賀大学、同志社大学、近畿大学、慶應義塾大学、
成蹊大学、九州大学、長崎県立大学、新潟県立大学、立教大学、東京学芸大学、華東師範大学
創価大学、武蔵大学、昭和女子大学、東北大学、獨協大学、東洋大学

<留学生>

東京大学、一橋大学、早稲田大学、長崎大学、京都大学、神戸大学、大阪大学、慶應義塾大学

<本土学生>

天津外国語大学、上海財経大学、江西師範大学、華東理工大学、
中南大学、暨南大学、北京大学、浙江外国語学院、西安交通大学

コンセプト

“30年後に続く9日間の出会い”

本プログラムの最大の目的は「これまで日中交流に馴染みのなかった学生に日中交流の楽しさ・意義を感じてもらう」ことです。本プログラムは、『日中交流』と『企業訪問』の2つのキーワードで構成されている点が他の日中学生交流プログラムと大きく異なる特色です。多くの学生が興味・関心を抱いている「ビジネス」の要素をプログラムに取り入れることで従来の日中学生交流プログラムではアプローチできなかった層に対して日中交流への興味を引き出すことを図っています。企業訪問だけでなく、日中の学生が寝食を共にするなどの共同体験を経ることで、多面的な日中両国の相互理解を目指しています。

2-1. 活動ダイジェスト

1日目・8月17日 集合、来日 オリエンテーション・開会式

快晴のなか、日本側学生22名、中国側学生23名、計45名が日本と中国の全国各地からオリンピックセンターに集合し、「リードアジア2019」がスタートしました。最初のアイスブレイクではチーム対抗ジェスチャーゲームなどを行い、期待と不安が入り混じる中、参加者それぞれがお互いに話し合い緊張感がほぐれていきました。その後、ようやく中国本土学生が到着し、総勢45名揃い、初めて大人数でテーブルを囲み食した後オリエンテーションと開会式を行いました。ここでは、プログラム全体の流れや、日中学生交流連盟の説明、日中交流センターの方からのご挨拶と、歴代のOBOGからプログラムにかける思いを伺いました。また、参加者1人1人の自己紹介タイムでは各々の個性の強さに、いらっしゃったOBOGの方も驚くほどでした。



2日目・8月18日 オリエンテーション・講演会・料理大会



プログラム2日目、まず午前中には互いの親睦をより深めながら、OBOGによるマナー講座やディスカッション練習を行い、これからの企業訪問に向けて準備を整えました。また午後には佐藤航平様による講演をいただきました。中国で創業した話を含め、参加者にとって普段なかなか聞くチャンスのない話を伺えました。さらに、講演会の後半では参加者たちは自分の夢などを話し合い、将来について考える契機にもなりました。料理大会では、各チームで日本料理と中華料理のそれぞれを作りました。日本人と中国人、それぞれお互いに知らない料理を初めて作ることもありお互いの文化の違いに触れる機会となりました。

3日目・8月19日 企業訪問・日中歴史勉強会

3日目からいよいよ企業訪問が始まりました。まず、午前中には、全員で霞が関の外務省を訪問させて頂きました。リードアジアとして外務省を訪問するのは今回で3回目となり、政府の視点から日中関係について講演を頂き、今回初めての訪問にも関わらず、質問に数多くの手が上がり熱心に日中両国の関係について考える学生たちの様子が見られました。午後には、ハウス食品グループ本社株式会社を訪問し、夜には、日中歴史勉強会を行い、「日中の歴史に対して自分で意見を持てるようになる」ことを目的に日中関係に関する歴史をおさらいし、ディスカッションを行いました。互いの教科書の違いという角度から日中の歴史について意見を交わし合う貴重な機会とすることが出来ました。



4日目・8月20日 企業訪問・本音大会+反省会

企業訪問2日目には、午前は株式会社ニトリへの訪問、午後は2社に分かれて日本電気株式会社と藤田観光株式会社への訪問をしました。また夜の本音大会+反省会では日中に関わるテーマで本音を語り合った後、これまでの反省を考えてもらい、8月生まれのメンバーにバースデーサプライズを行いました。



5日目・8月21日 企業訪問・お台場散策



企業訪問3日目には、午前中に2社に分かれて株式会社三菱UFJ銀行の田辺智彦様による講演と、株式会社JTBマーケティング&トラベルを訪問しました。午後はパナソニック株式会社を訪問し、最先端の技術を使ったパナソニック製品の見学や、新製品を考案するグループワークなどをしました。夜はお台場を散策しました。

6日目・8月22日 企業訪問・最終発表会準備

午前中は日本放送協会への訪問でした。午後からは各グループに分かれ、最終発表会の準備を行いました。今年度は、「業界別の未来の課題を解決するビジネスを提案せよ」のテーマのもと準備が進められました。ほとんどのグループが寝る間も惜しんで発表の準備を行っていました。グループ全員で「これまでの学びを活かした発表にしたい!」との真剣な思いで取り組んでいる様子がとても印象的でした。



7日目・8月23日 最終発表会・懇親会

全グループの最終発表の準備が整い、午後よりオリンピックセンターにて選考会を行いました。投票によって高得点を獲得した上位3チームが、本会場の東京大学にて成果発表を行う機会を得ることが出来ます。「業界別の未来の課題を解決するビジネスを提案せよ」というテーマでメーカー・小売・飲食・観光・金融・マスコミとそれぞれの業界に分かれ、企業訪問で学んだ内容を活かすことが求められる発表になりました。学生らしい視点と、新しいアイデアが光る成果発表会となりました。発表会及び、懇親会には今年も多くの方にご参加頂きました。リードアジアは受け入れをして頂いた企業関係者様、学生団体の皆様、OBOGの皆様の皆様のご支援ご協力があったのプログラムだということを身をもって実感しました。学生として、社会人の皆様とこの様に交流させて頂ける貴重な機会に感謝の思いで胸がいっぱいになりました。



8日目・8月24日 都内視察・総括

プログラムも終盤となり、この日は各グループに分かれて都内視察を行いました。出発前に行先を決める際、「本土学生が帰国前にたくさんの思い出を作れるように！」という日本側学生のアイデアや配慮にとっても感動しました。たくさんの思い出と写真が残る視察となりました。視察後は、渋谷で総括を行いました。この8日間での思い出話は尽きることなく、あっという間に時間が過ぎていきました。総括終盤で実行委員会がサプライズ作成していたムービーを上映すると、中には涙を流すメンバーも。最後まで友情を深め合うことができた、涙あり笑いありの総括となりました。



9日目・8月25日 閉会式・帰国

午前中の閉会式をもって、リードアジア2019プログラムが正式に閉幕しました。長いようであっという間の8泊9日間。しかし、この期間で日中の両学生が心から感じ取ったものはとても大きく、そして深いものであったと思います。そして、本プログラムをもって終わりではなく、むしろ始まりとして、これからの日中の未来に続いていくものだと思っています。本土学生の見送りの際、涙しながら「また絶対会おうね!」「これからも一生日中友好に関わっていきます!」と決意する姿や、別れを惜しむ姿にこれからの30年後の日中の未来を約束しているかのような強い絆を感じました。



2-2. 企業訪問・講演の様子

外務省

～今日の日中関係とこれから～

8月19日・AM

今年度もご協力いただき、訪問が3回目となる外務省では、日本で行われている対中外交についてご講演いただき、政府の視点から見る日中関係について学ばせていただきました。テレビでも見たことのある正面玄関と厳重な警備の様子に、はじめは皆緊張した面持ちでしたが「日中のこれまでの歴史と現在の関係性」に関して、外交官として働かれた実際のご経験を交えたお話に、参加学生は緊張も忘れ、熱心に聞き入っている様子で、とても印象的でした。質疑応答のコーナーでは、初めての訪問にも関わらず、日中両学生から挙手が絶えず、「日中関係」を政治面から経済面、メディア面など様々な視点から考える真剣な姿が見れました。学生一同、日中関係の今後を深く考えるきっかけとなる充実した訪問となりました。



ハウス食品グループ本社株式会社

～カレーを中国の人民食に～

8月19日・PM

即席カレーを中心とする日本の大手食品メーカーハウス食品の東京本社へ訪問させていただきました。インスタントカレーにおいて中国でも大きな市場シェアを占めているハウス食品の中国市場における戦略などを含め、社員の方々からお話をたくさん伺えました。身近でありながらなかなか触れる機会のない食品メーカーについて改めて理解を深められました。その後、参加者たちはハウス食品の挙げた「カレーを中国の人民食に」というスローガンをもとに具体的な提案についてディスカッションを行いました。グループごとに挙げられた提案について発表を行いました。初めての企業での発表ですが、社員の方々が教えてくださったことも活かし、洗練された成果が挙げられ、参加者にとって大変学びの多い訪問となりました。



株式会社ニトリ

～ゲーム感覚で体験する経営戦略～

8月20日・AM

世界中に店舗を展開している、大手のインテリアメーカー株式会社ニトリの東京本社へ訪問させていただきました。冒頭ではニトリの長年にわたる歴史や、ニトリ特有の「製造物流小売業」というビジネスモデルについて紹介をいただき、普段でも大変おなじみのニトリについてさらにいろいろ学びました。その後、経営者目線でのワークショップを行いました。皆さんはニトリの経営者になり、チーム対抗形式でニトリの模擬経営ゲームを体験しました。経営者目線で創業したばかりの企業がどのように世界規模まで発展できたのかについて楽しく学びました。学生たちは自分の企業を発展させるために、“ヒト・カネ・モノ”をどのようにアレンジするか、どういう施策を打てば良いかを頭をひねっているなかで、大変貴重な3時間が過ぎました。学生たちにとって忘れられない、大変充実した体験になりました。



藤田観光株式会社

～ホテル椿山荘からみる日本のおもてなし～

8月20日・PM

藤田観光は毎年お世話になっており、今年で5度目の訪問になります。増え続ける外国人観光客や、オリンピックの開催など観光業界のプレゼンスが高まる中で、日本屈指の高級ホテル椿山荘東京を見学させていただきました。結婚式場の綺麗なチャペルや人気の客室などを案内して頂いたほか、豪華な庭園の歴史や隠された細かな工夫を教えてくださいました。ホテル椿山荘が国内外のお客様に長く愛される秘訣である日本最高クラスのおもてなしを肌で感じる事は、学生にとって日本文化や日本らしさを実感する貴重な経験になったと思います。また、後半は「中国人のお客様をどのようにおもてなしするのか」をテーマにディスカッションをし、見学で学んだ日本のおもてなしを取り入れた新しいホテルやサービスの提案企画をしました。藤田観光の方から多くのフィードバックを頂くことができ、非常に実りある訪問になりました。

～学生らしいビジネスアイデアから

イノベーションを起こす～

8月20日・PM

今年で4年目となる NEC 訪問では、今年度も田町にある本社ビルに訪問しました。訪問学生は気さくな社員の方々に迎えられた後、壁一面がホワイトボードになっている会議室に案内させていただきました。そこでは社会の現状やイノベーションについて、更にビジネスモデルの作り方などを含んだ事業創造ワークショップを開いていただき、アイデアの考え方やビジネスの作り方を学びました。アイデアを班ごとに発表した後には現役である社員の方々からの鋭いフィードバックを頂き、参加者は改めてビジネスをすることの難しさや複雑さを再認識しました。しかし、コンテンツの内容やその鋭い指摘のお陰で、参加者にとってはとても有意義な時間になりました。



株式会社三菱 UFJ 銀行

～商業銀行金融システム・日中経済成長の

異同・キャッシュレス化への対策～

8月21日・AM

メガバンクの一角、三菱 UFJ 銀行の方に出講していただきました。三菱 UFJ 銀行経営企画部中国室副室長の田辺智彦様が商業銀行の金融システム入門から中国と日本の経済成長の異同について講演を行い、次にキャッシュレス化を金融システムの視点、特に信用創造の仕組みを解説していただき、実務的な経済のありようを学生に説明されました。銀行と金融に対して、真剣な眼差しで受講する学生の姿がとても感心だと田辺様が語られました。続いて、学生たちは「キャッシュレス化の中でメガバンクの対策」についてディスカッションを行い、「〇〇ペイ」の商業銀行へもたらず機会と脅威に重点を置き、全員がリーダーシップを発揮して独特な観点から多数の案を挙げました。難問である故、リーダーシップの重要性に実感してチームワークの努力方向が明白になったと学生からも好評があげられました。



～インバウンドソリューションの企画体験～

8月21日・AM

JTB グローバルマーケティング & トラベル (通称 JTBGMT) は JTB グループの訪日インバウンド機能特化型会社です。JTB105 年の DNA とミッションを受け継ぎ、日本の外国人誘致 (インバウンド) ビジネスに貢献してきました。今回の訪問内容として、まず社員の方による日本のインバウンド歴史や現状、2020 東京オリンピックに向けた今後の取り組みなどについて講演をいただき、インバウンドが日本経済の成長に大きく寄与する事から感銘を受けました。その後、日本人参加者と中国人参加者がそれぞれ2つの班に分かれ、訪日する側とそれを受け入れる側それぞれの視点からディスカッションをし、訪日外国人観光客を集客するためのツアープランを考案し、発表しました。



パナソニック株式会社

～未来の技術を体験し、

イノベティブな商品を生み出す～

8月21日・PM

パナソニック株式会社の中でも主に家電を手掛けるアプライアンス社に訪問させていただきました。有明にあるパナソニックセンター東京に到着すると、まずはショールーム見学をしました。AI・IoT を駆使した最先端の技術や未来の暮らしを体験し、学生一同目を輝かせていました。続いては中国経験のある日本人社員や中国人社員の方々に登壇して頂き、会社の事業説明やトークセッションの中で企業として日中関係に大きく貢献してきたパナソニックについて理解を深めました。最後のディスカッションでは社員の方も各チームに加わり「中国の伝統文化を活かしたパナソニックの新サービスを提案する」というテーマで商品企画に挑戦しました。寸劇形式での発表は非常に盛り上がり、楽しみながら多くのアイデアが飛び交うディスカッションになりました。半日という時間の中で学びがいの大きい非常に有意義な時間になりました。



～「事実」と「真実」の違い、そして「伝える」難しさ～

8月22日・PM

NHK ワールドは独自のニュースや「海外安全情報」で安全と安心を支える情報を発信する国際放送局です。今年の訪問では、国際放送局並びに中国語センターに関する業務説明のほか、中国現地取材に経験を持つ社員の方による現場でしか感じられない貴重なお話を伺うことができました。また、今年度から新たに始まった「中国語ネットニュース」について、よい多くの人々に情報を届けるための工夫や興味を惹きつける番組コンテンツの考案についてなどのお話も伺い、これからの報道の形についても考えを深めることができました。最後には8K映像で番組を視聴させていただき、大変有意義な時間を過ごすことができました。

受け入れを終えて



参加された学生は皆熱心で、このプログラムで何かを学ぼうとしている意欲を強く感じました。運営を担当された学生の皆さんもたくましく感じました。

訪問先企業A社 ご担当者様

今回、受け入れではなく出講形式で参加協力致しましたが、受講された学生皆さんの真剣な眼差し及び活発にディスカッションを進める積極的な姿勢に感心致しました。プログラムを周到に手配された事務局学生の皆さん、温かくサポートされた国際交流基金日中交流センターの皆さんのご尽力に心より敬意を表します。

訪問先企業B社 ご担当者様

とても活気があってよかったと思います。日本からの視線だけではないので、とても有意義な意見を聞けました。ありがとうございました。

訪問先企業C社 ご担当者様

この度は貴重な機会を頂きありがとうございました。弊社としましては、優秀人材（特に中国籍学生）に対する「広報・採用活動」の一環として参加させて頂きました。我々から皆さんへの投げ掛けの際には、予想だにしていなかった考えや斬新なアイデアを次々と出して頂き、日頃の業務で凝り固まった思考になっていると改めて気づかされました。ワーク部分は参加学生の皆さんに物足りなさを感じさせてしまったのではないかと推察しておりますが、日本と中国のマーケットの違いを的確に捉え提案をされており、弊社事業部からも感心が寄せられていました。是非とも今回をきっかけに少しでも弊社に興味を持って頂き選考にエントリー頂けますと幸いです。

訪問先企業D社 ご担当者様

2-3. 講演の様子

8月18日・PM

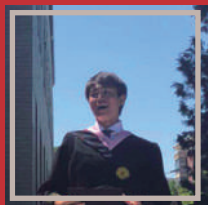
佐藤 航平様

日中間でコンサルティング事業に従事されている佐藤様よりご講演いただきました。「日中に興味関心のある参加者のキャリアプランと一緒に考えよう」というテーマに佐藤様の過去に三井住友銀行、中国でEC事業を経営されていたご経験を生かし大企業に就職すること、中国で起業することの難しさ等をお話いただきました。学生たちには今後のキャリアを考える上で重要なことは、「外部環境：世界の変化」「内部環境：自分の得意分野、本質的な部分」の2点であると教えていただきました。最後には、「私と日中」をテーマにワールドカフェを行い1人1人がどんな手段で日本と中国の架け橋になるという目的を達成しようかヒントを得ることのできた時間になりました。

After work

活動を終えて

3-1. 参加者の声



坂井勇真

早稲田大学

政治経済学部国際政治経済学科 3年

リードアジアプログラム 2019 を通して、中国の学生と寝食を共にすることでお互いのことをより深く知ることが出来ました。また、多くのグループワークを通して中国の学生からの意見を聞くことができ、大変勉強になりました。9日間というあっという間の時間でしたが、日本の学生と中国の学生が協力してひとつのものを作り上げていく、そういった経験をする事ができ、貴重な時間を過ごすことができました。

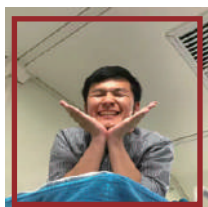


中島さよこ

慶應義塾大学

環境情報学部環境情報学科 4年

学生のうちにしか体験できないことを、9日間で一気に味わえる、かつ自分自身を成長させてくれるプログラムでした。日中はもちろん、世界に目を向けて準備しようとしている学生が多く、刺激になりました。

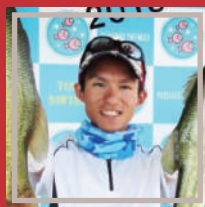


佐藤裕一

創価大学

文学部人間学科 3年

このリードアジアでは本当に多くの刺激をもらいました。日中の間に存在する様々なビジネスの課題、歴史・文化の課題に対してディスカッションを通してお互い理解することはとても難しかったですが非常にやりがいを感じています。また九日間、中国人学生と寝食を共にしたことで互いの相互理解を深めることができました。将来の夢として日中経済をさらに発展させていきたいです。



坂野純平

滋賀大学

経済学部企業経営学科 2年

想像の1.5倍以上楽しかったです。やっぱり合宿形式で行うことでみんなの様子もわかるし、繋がりも強まるのだと感じました。私は地方からの参加でしたが、自分が今まで見ていた日本の狭さに気がつきました。中国については、参加する前は正直あまり関心がなかったのですが、参加している中でコミュニケーションをとるために中国語を覚え、文化を知れたので今は中国に早く行ってみたいと思っています。中国で泊まれる場所もいっぱいできたし笑 これからも中国に限らず、様々な世界を見てみたいと思います。



橋本季拡

立教大学

社会学部社会学科 3年

中国に対して興味はそれほどなく、異文化交流と企業研究を最重要目的としてプログラムに参加をしましたが、結果的に中国という国に大きな興味を覚えました。具体的には、彼らと彼らの母語でディスカッションをしたいと考えるようになりました。自国の情勢を理解し日中交流を推進しようとするその意識と自分の意識との差を思い知りました。また、企業訪問においては企業毎に良い悪しが見れましたが、良い企業は非常に密な体験ができました。学生の就活を本格的に指導する前にこういったグループワークをする機会を与えられたことを非常に感謝しています。



湯ノ口涼香

同志社大学

グローバルコミュニケーション学部

中国語コース 2年

中国に対して普通の日本人より多少興味がある程度でしたが、リードアジアを通して実際に中国人と接する機会の大切さを知りました。リードアジアに参加する中国人は日本語を母語のように話し、日本に対する興味があり、日本に友好的な人たちしかいません。そういった人たちと今後の日中を考えながら、同じ国のたただの友達のように遊ぶのは本当に楽しかったです。企業研修に関しては充実したプログラムで白熱するディスカッション、問題解決のためにチームで知恵を出し合うのは自分の考えの限界を越えさせてくれるものばかりです。時には上手くいかないこともありますが、自分のチームに感謝すること、優れている他のチームへの称賛を忘れないことを私は心がけていました。だからこそ毎回のディスカッションを楽しめたのだと思います。



野中悠貴
九州大学
経済学部経済経営学科 2 年

大学に入学してから常に頭を使い続けるということがだんだんなくなっていき、なにか刺激が欲しいと思っているときにこのリードアジアに参加しました。企業訪問や最終発表ではディスカッションなどで常に頭を使い続けていて、自分が成長していることを日に日に感じられ、すごく有意義な 8 泊 9 日間を過ごすことができました。リードアジアが終わり、またもとの大学生活には戻りますがこれからは常になにか新しいことに挑戦し続け、自分が成長することに全力を尽くそうと思いました。リードアジアは間違いなくこれからの人生に大きく関わるものになりました。



郭翔一
早稲田大学
社会科学部 4 年

自分の価値観を変化させ、長所短所を考えさせられるプログラムでした。特に今まで日本人としか議論のしたことのない私にとって、中国人の方々と議論は新鮮なものでした。時には、日中の文化の壁を感じ、葛藤する時もありましたが、その分絆は深まったと思います。そして、今まで接することのなかったような企業に訪問することができ、自分のキャリアの可能性を広めることができました。まさに、【30 年後に続く日中の絆】の創出ができた数日だったといえます！



森井宏典
長崎県立大学
地域創造学部公共政策学科 3 年

今回、このプログラムに参加し、日本人、中国人の方々と交流や、グループディスカッションを通して、さまざまな考え方に触れることができました。また、今までの人生や、これからの夢も語り合うことができ、非常に良い刺激となりました。この経験や出会いを大切に、今後も日中の友好に役立つ人材になれるよう努力を続けていきます。



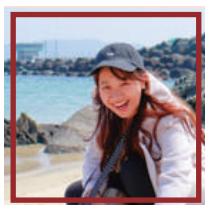
柳本賢太郎
九州大学
共創学部 2 年

4 月にリードアジアの存在を知ってから今日まで中国と日本の関係性について考えてきました。中国語の勉強を通して、ずっと中国には触れていたので今回このような機会を得ることができて本当に良かったと思います。企業訪問では、お互いの考え方をぶつけて、生まれたアイデアを高めることができました。また、今まで自分が考えて来なかった業界についても考えることができ、視野が広がりました。来年は中国浙江省に留学予定なので、このリードアジアで学んだことを生かして、日中関係について深く考えて行きたいと思います。



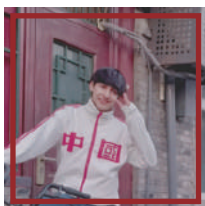
須貝京佳
早稲田大学
法学部 3 年

初日にリードアジア集合場所についた時のワクワク感と若干の不安が今でも忘れられません。プログラム全体を通じて沢山の楽しい思い出も、辛い課題と一緒に乗り越え、分かち合える友人がたくさんできました。今、初日に戻ることができるなら、リードアジアで素晴らしい出会いがあるから不安は必要ないと、強く自分の背中を推してあげたいです。



米村萌
九州大学
共創学部共創学科 2 年

このリードアジアに参加したことで得られたものは、非常に多かったです。想像していた以上のものをたくさん得られました。自分の強みや弱み、中国という国のことやその文化、日本との違いなど、この 8 泊 9 日という短い期間で、多くのことを知ることができました。プログラムでは、一部の学生だけでなく、できるだけ多くの学生と交流できるように工夫がされていて、その通りに、たくさんの人と交流ができ、非常にありがたかったです。30 年後もまた同じように一緒に、ふざけながら、真面目な話をしながら、笑っていたいと思える友がたくさんできました。



梅内ヴィクトル健吾
新潟県立大学
国際地域学部国際地域学科 3 年

大学の国際交流センターと昨年参加していた後輩から勧められ応募を決意し、無事参加を決めることが出来た。参加者名簿を見たときは、有名大学出身ばかりで気が引けてしまったが、想像通り個と我の強いメンバーだった。普段ディスカッションでは考えられないレベルの高い議論と発想が飛び交い、自分も負けてられないと高いモチベーションで毎日を送ることが出来た。同時にこのような学生たちと並ぶことができて今まで頑張った結果を出すことができて、これからのモチベーションにもなった。文化交流で終わらないハードで濃密なこの日中交流は留学していても味わうことがなかった。9 日間の実行委員会の一生懸命な進行のおかげで、自分たち参加者は一回り大きく成長ができた。これからもリードアジアが続いて欲しいし、この関係はこれからも続いていくと思う。



児島成美
東北大学
文学部 2 年

私は中国語をほとんど知らない参加者でした。他の人は中国語を話せる人ばかりでしたので、周りの人が中国語で談笑しているときに一人だけ理解できなかったときが何度もありました。そのときは寂しく思いました。このような経験を経験することはあまりなかったのも、この経験から同じような立場の人の気持ちが理解できるようになったと考えています。私は将来、日本語教師になろうと思っているので、日本語を理解できなくてもどこかしく思っている学習者に寄り添うことができると思いました。



梅田真葵
昭和女子大学
国際学部国際学科 1 年

相手を理解するのにバックグラウンドなんて関係ない。これを証明することが、私のリードアジアでの最大の目標でした。結果的に、ただ上部のことを話す関係ではなく、日中間の歴史問題や互いのプライベートなことまで話せる関係を作り上げることができました。9 日間寝食を共にする中で、温かい言葉や無限の優しさに触れ、中国留学がとても楽しみになりました。プログラムが終わった後も、ずっと交流していけるような関係を作り続けていきたいです。



今村仁美
武蔵大学
経済学部経済学科 3 年

全体を通して、とてもハードなスケジュールではあったものの、この夏で一番濃い 9 日間を過ごすことができました。色んな経歴、個性もつ人たちと毎日過ごして、本当に助けられて最後まで過ごすことができたと思います。一人一人の考えをしっかりと聞いてくれて、それについてみんなが考えてくれる、普段鵜呑みにしていることでもここでならみんな話ことができ、共有することができて、本当にいい経験が出来たと思います。ここではみんなが自分の良さを最大限に出して、それが本当に魅力的で、そんな素敵な人たちリードアジアで出会えて本当に良かったです。30 年後もまたみんなに会いたいです。本当にありがとうございました。



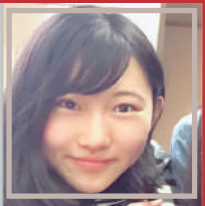
山田茉由子
東京学芸大学
教育学部多文化共生教育コース 1 年

期待以上の大変さ、苦しさ。しかし充実さと楽しさも期待をはるかに超えていました。このプログラムに参加していなかったら今抱いているような感動、焦り、充実感、将来への希望は無かったのだと思うと怖くて仕方がないくらいです。自分よりはるかに広い世界で生きている先輩方や、自分に持たないものを多く持っている同じ年代の人たちの中で不安に押しつぶされそうでしたが、必死についていこうと頑張りました。こんなにも前向きに成長できたと思える機会はこれまでに無かったので、本当に嬉しかったです。8 泊 9 日間ありがとうございました！！実行委員の皆様、お世話になりました！



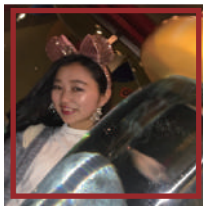
児玉朝香
獨協大学
国際教養学部言語文化学科 3 年

"日本と中国は友好な関係である"
恐らく、この考えに同感できる日本人、中国人は少ないかもしれません。実際に私の周りにも、メディアを通して、両国に対して、悪い印象を抱いている人も少なくはありません。今回のプログラムを通して、日本と中国の関係、日本人と中国人、企業と経済など、多くの事を学ぶ事が出来ました。この事を自分の中で完結させるのではなく、多くの人に日中関係を伝えられるようにしたいです。



宮本悠容
成蹊大学
経済学部経済経営学科 2 年

知り合いが誰もいない中、参加するのがとても不安でした。しかしながら、最初のアイスブレイクから様々な人とお話することができ、とても有意義な日時を過ごすことができました。日中の交流事業に今回初めて参加しましたが、中国への見方を変えてくれた機会になりました。中国には人口が多い分だけ様々な考え方の人がいて、将来をきちんと考えてそれを達成するために今努力している人が沢山いると感じました。大学 2 年生の今、将来を考え行動している同世代の人と出会うことができたことがとても嬉しかったです。30 年後につながる 9 日間というテーマに繋がるような関係を続けていきたいです。



武田和花
東洋大学
国際学部国際地域学科 1 年

自分を変えたいと思い、友人に勧められた際にリードアジアに参加を決めました。初めは、中国語が出来る学生達との差を感じ劣等感に苛まれた時もありましたが、中国人学生は話せない私のことまで考えて話してくれたのでそれ以降不安になることはありませんでした。プログラムとしては、とても充実していて、楽しくて、9 日間が風のようにすぎてしまいました。リードアジアでなければ行く事が出来なかったであろう企業、出会えなかったであろう友人、その 1 つ 1 つが私の宝物です。本当に参加して良かったと心から感じています。最後に、実行委員のみなさんお疲れ様でした、ありがとうございました！



徳永潤
近畿大学
国際学部国際学科
東アジア専攻中国語コース 3 年

以前から日中交流関連のイベントに積極的に参加してきたが、リードアジアはこれまでで一番ハードで、そして中身がぎゅっと詰まったプログラムであった。企業訪問では各業界の一流企業に訪れ、社員の方に温かく迎えて貰った。丁寧な会社説明に始まり、グループワークでは頭を絞って考え抜き、仲間と協力して取り組んだ。社員の方からのフィードバックは実心的で、これからの就活の際に大いに役立つと確信している。また中国の学生と協力してこのプログラムを走り抜けたことは、今後の人生の糧になると言っても過言ではないだろう。日本人だけでは到達できない結論に至った場面もたくさんあった。国を越えて議論することの重要性を感じた。朝から晩まで、寝食を共にする中で様々な話をする事ができた。リードアジアだからこその話せることがたくさんあったと思う。お互いに学んだ歴史や、それぞれの国のいじめや民族など、ナイーブな問題についても積極的に議論できた。それができたのも、根底にお互いの国をリスペクトする気持ちがあったからだろう。リードアジアでは実に多様なバックグラウンド及び考えを持つ人が集まっていた。自分の世界の広がりを感じ、また主体性を持って議論に参加することがいかに大事かを実感できた。リードアジアで得たものは多い。知識、経験、友人。8 泊 9 日のプログラムを通じて築いた日中の絆は、30 年後も続いていくと信じている。



三田明絵
華東師範大学
金融学院国際経済貿易学部 1 年

今回リードアジアに参加するにあたって自分の中では「友達をたくさん作り、交流の場を広げる」というのを参加前の目標にしていました。リードアジア 1 日目ドキドキしながら開会式を行い、最初のグループ班とすぐに打ち解けることができました。その班の人たちとは最後までずっと一緒にいてずっと笑いが絶えないような仲間になりました。1 日目の後も何度ものグループ分けにより、たくさんの色々な人と話す機会を通してお互いのことを語って友情を築いていきました。そのようにしてできた友達から学ぶこともたくさんありました。リーダーシップ能力、グループディスカッション能力などもそうですが、他にも気遣いしてくれる優しさ、時には叱ってくれて、普通 9 日間では築けないような関係を築くことができたのが本当に嬉しいです。今年のテーマが「30 年後に続く 9 日間」ということで、この友情が本当に 30 年後に続いていけばいいと思います。他にも企業訪問を通して学んだことたくさんありました。本当に人生に残るプログラムになりました。本当に良かったです。ありがとうございました。



肖迪
神戸大学
国際教育総合センター
日本語日文化学科 3 年

リードアジア 2019 の活動に、私は大きな期待を持って臨みました。今まで数えきれない日中交流に関する活動に参加させていただいたのですが、今回の活動ほど斬新なコンセプトを持っているものはありませんでした。自分がビジネスに向いていないため、作業するときに積極的に自分の意見を述べられなかったのですが、素敵なメンバーたちに恵まれ、接したことない分野のことや新たな考え方をいろいろ吸収でき、視野を広げました。陰に陽に支えてくださった国際交流基金や実行委員の皆さん、そして他の参加者に感謝します。これからも、今回の活動で得たものを生かして、日中友好の関係を作るために努めていきたいと考えています。

充実した九日間を過ごさせていただいて良かったです！

様々な大企業に訪問することによって、企業のことのみならず、その業界についてもいろいろ知りました。そして、グループワークにおいて、企業の説明でいただいた情報をもとに、自分で考え、みんなと話しあいながら、結論に進む機会も貴重だと感じています。また、リードアジアを通じて、様々な人と出会い、友達になれることも良かったです。自分の周りの小さい世界ではなく、日本各地、そして中国各地から来たみんなと話し合うことによって、新しいことを知り、違う視野から物事を見ることもできました。最後に、このプログラムは中日学生をつなげる大切な場となっていると思います。みんながグループワークにおいて、自分の考えと自国の事情を話し合い、一つの目標に向けて進むことは大切で、中日の交流にとっても役立つと感じています。



戴雨希
一橋大学
商学部 1 年



洪展宏
暨南大学
国際学院 4 年生

このプログラムが本格的に開催するまでに自分が上手くいくかどうかは正直を言うと、疑問を抱えていました。この 9 日間、仲間からいっぱい手伝ってもらって、理解してくれて、本当に、感動しました。初めての日中交流で皆のような人々と出会えるのはまるで夢でした。今振り返って見ると、もし皆がいなければ、どうしようか、本当に、考え難いです。自分もこの過程の中で、友だちの一生懸命の姿をみて、むしろに励まされて頑張りたいと思いました。皆いずれも優秀です。最後の言いたい言葉が、またどこかで友達として会おうという気持ちです。リードアジアの皆さんありがとうございました。

私は日本に来るのははじめてです。日本語もそんなに上手ではないし、ビジネスに関する専門知識も持っていないし、最初からほんとうに困ります。グループディスカッションの時、何も話せない、ただ聞いているだけです。幸い、ここの皆さん全員優しく、わたしの悪いところも支えてくれました。私は色んな迷惑をかけました。ずっとごめんなさいという気持ちを持って頑張りました。いろいろお世話になりました。ほんとに感動しました。ありがとう！

鄒昇羽
江西師範大学
外国語学院 2 年生

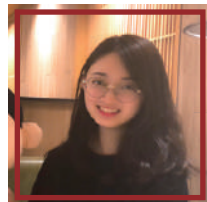


曹雨楠
大阪大学
外国語学部 2 年

リードアジアに参加できたことを本当に嬉しく思っています。楽しすぎて 9 日間が瞬で過ぎてしまいました。グループディスカッションなどでは大変なこともあったのですが、お互いの意見を尊重し合い、共に同じ目標に向かって頑張ったことはとても良い思い出になりました。また、企業訪問したことは、私の将来の選択肢を広げてくれました。これからも日中関係に何らかの形で関わっていきたいです。リードアジアは私を成長させてくれました。最後に、実行委員のみなさん、本当にありがとうございました。

みんなそう言っているかもしれませんが、一番の感想は、リードアジアに参加して本当に良かったということです。最初は日本人と交流しながら企業訪問を通し能力を磨きたいだけですが、思ったよりみんなと仲良くなって、特に何日間しか付き合っていない何人かの日本人と中国人と友達になり、もう何年前から知ってたようです。また、リードアジアには優秀な人が多すぎて、人との接し方、グループワークの経験、物事を見る考え方、リーダーシップなどにおいて、自分がまだまだ足りない部分が多いということを深く感じました。皆さんと出会って感謝と幸せの気持ちしか伝えられないです。本当にありがとうございました！

岳氷佳
一橋大学
商学部 2 年



彭永晟
慶應義塾大学
環境情報学部 2 年

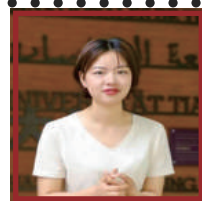
すごい密度のある 9 日間を過ごしました。初日は緊張と期待の気持ちで過ごしました。元々リードアジアに知り合いは 1 人もいなくて、新しい環境に飛び込んで、緊張しました。その一方、新しい友達が出来たら、自分をもっと喋れるようになったらいいなと期待しました。9 日間過ぎてたくさんの友達が出来ました。短い 9 日間なのに一生の親友ができた気がしました。また、企業訪問を通して、各違う業界についての知識が増えました。優秀なサラリーマンはどのような存在なのかをも知りました。優秀な方々を目指して引き続き頑張りたいと思います。最後のプレゼンテーションもチーム丸ごとで頑張りました。期待していた結果を手に入れられませんが、すごいいい経験を頂きました。9 日間本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。



皆さんちゃんと付き合うことができるように、リードアジアのグループ分け、部屋割がいつも変わっている。それでなければ、多分私は本土学生としか交流しないだろう。(人間というのは、馴染みが好きで、未知を怖がるものだと思う。) そのような分け方のおかげで、日本人と中国留学生と十分付き合うことができ、素晴らしいと思う。

また何回かの発表は協力の重要性を教えてくれる。一人ならば限界があり皆さんと一緒にすればヒントがいっぱい出てくる。要するに、リードアジアを通して、私の語学、ビジネス、人間関係、協力に対する認識も新しくなる。最高の9日間と思う。

于果
天津外国語大学
日本語学院 4 年生



李岱
一橋大学
商学部 2 年

リードアジアは本当に素晴らしいと思います。初日のアイスブレイク、2 日目のディスカッションの講座、そして最後の日の打ち上げなど、毎日でも私にとって大切な思い出があり、今日の自分は昨日の自分より少し成長したと実感し、また毎日違うメンバーと話し、自分の考えも日々変わっています。この活動を通じて、私はビジネス、日本の大学生の考え、さらに自分を理解することができました。また、私は日中交流のイベントにも興味を持ち始め、小さな力でも日中交流、さらに日中関係に貢献できればと思います。来年はぜひ実行委員として、リードアジア 2020 を成功させたいです。

私は少し恥ずかしがり屋で、みんなの前で話すことや、発表するのはとても怖いが、このリードアジアに参加できて、だんだん自分の意見や感想を述べるようになりました。まだまだ不足ですが、私にとっては大きな変化です。参加前は少なくとも 1 人の友達を作ろうと考えていましたが、最後はたくさん作ることができてとても嬉しいです。実行委員のみなさんとても優しく、誕生日のサプライズがあって、本当に忘れがたい思い出です。この九日間の出会いと絆は一生忘れません。

王子怡
上海财经大学
外国語学院 1 年生



蘇渤倫
天津外国語大学
日本語学院 3 年

リードアジアの皆さん本当にお疲れ様でした！！！！9 日の間で色々迷惑をかけまして、申し訳ないです！日本語が上手ではないですから、時々寂しいなぁと思う時もありますけど、皆さんと一緒にいると気持ちよくなりました。確かに名門校の皆さんは賢いですねー、能力の差もいっぱい感じました。これからも頑張らないといけないと思います！皆さん、大変お世話になりました！ありがとうございました！

こんな短い間に業界越える数企業訪問できる機会は珍しいと思います。そして質問に丁寧に答えてくれてありがとうございました。大学には、ただ単位を取るために知識を学ぶ場合が多いです。学びはというところに実用できるのかは曖昧でした。企業訪問を通して、製品はどういう風にニーズから解決策まで進むメカニズムが少し明らかになりました。かつ社員の方から【大学知識よりも実務経験だ】というアドバイスも、考えさせて頂きました。これからもプロジェクトの実践で経験を積み上げていきたいと思います。また、リードアジアを通じて、自分の日本語能力の足りないところを見つけました。主にペースの速い討論でどうやって早く、明らかに自分の意見を述べるのはこれから頑張る課題になると思います。特に上級生の姿を見ると、自分の言語レベルかつ組織能力が 2 年後こうなりたいという初期目標を設定して、自分を常に励ましてあげます。これで、リードアジアの 8 泊 9 日間、いろいろ勉強になりました！

羅清麟
早稲田大学
人間科学部 1 年



曹鐘元
東京大学
教養学部文科二類 2 年

9 日間本当に楽しかったです。ディスカッションと発表のやり方や企業のこととか、いろいろ勉強になりました。さらに、たくさん参加者と仲良くなって、お互いに日本と中国のことを話し合ったり、将来のことを考えたりして、意味ある時間を一緒に過ごすことは本当に楽しかったです。リードアジアに参加できて、世界が広がった感じもします。これをきっかけに、自分と同じ中国と日本両方に興味を持ってる人に出会ってよかったと思います。ぜひこの縁を三十年後にも続いて日中のために自分たちの力を注ぎたいと思っています。

人生初めて一週間ずっとスーツ着て、ハイヒール履いて、会社に行ったり、真面目なグループワークしたりしました。初めてこんなに数多い他大の学生さんたちと出会って、仲良くなりました。初めて日本語と中国語でディスカッションして、通じなくて焦ったり、諦めたい時もありましたが、みんな最後まで頑張って結果をあげて本当によかったと思います。リードアジアのおかげで日本企業について色々学んだり、ディスカッションをしたり、一番大事なことはこんなたくさんのかわいい仲間と出会って、本当に心から感謝しています。九日間お疲れ様です！本当にありがとうございました！！！！

李婧
慶応義塾大学
商学部 1 年





劉康琦
浙江外國語學院
國際工商管理學院 3 年生

アツいという言葉に凝縮させていただきたいです。天気が暑いのににもかかわらず、9 日間で元気で熱いプレゼンをしたり見たりするなんてあつい限りです。
ありがとうございました。

9 日間いろいろお世話になって、どうもありがとうございました！短い間ですが充実した企業訪問で皆とディスカッションして、協力して発表したのはとても有意義なことで、勉強になりました。日本人の友達もいっぱいできて嬉しいです。もしまた機会があれば、このようなイベントにも、参加させて頂きたいです。日本の企業訪問だけではなく、日本人の大学生を中国に連れて、お互いに風土や文化を感じたり、学生同士で相互の友好関係を築いていこうと思います。30 年後この忘れがたい思い出を自分の子供にも伝えようと思ってます。みんなと日中友好関係をもっともっと深く築いていくために一緒に頑張りましょう！



王婷
上海財經大學
外國語學院 2 年生



李靈均
北京大學
歷史學系 博士 1 年

僕は日本語を勉強し始めて来日の前ですごく心配だった。最初は聞きにくくて話せなかったのが困ったと思う。でもみんなが僕に助けてくれてよくしてくれて本当にありがとうございます！このイベントに参加させていただき本当にありがとうございます！日本事情を深く理解できると思います！これから日中兩國の関係がますますよくなるように！これからまたみんなと会えますように！

一生忘れられない思い出だと思いました。こんな素晴らしい友達できて、嬉しかったです。実行委員の皆様本当にお疲れでした。いつも笑顔で接してくれて、話しかけてくれてありがとうございました！！！！実行委員たちの笑顔を見ると、一日の疲れも消えるって感じがする。正直いうと、帰りたくない、もっと友達と一緒にいればよかったのに…
来年9月大学院に行くので東京にくる。またみんなと会えたらいいな！



文禹熹
中南大學
マルクス主義學院 3 年



湯書華
京都大學
人間環境學研究科修士 1 年

勉強上：ディスカッション力はゼロから UP しました。初めてタイムキーパーを務めたり、初めてグループ発表のために3時まで脳を使うなど、いろいろとチャレンジして、個人でなくグループと一緒に乗り越えました。この後、すぐ就活に入るので必ずリードアジアで学んだものを活用します。
生活上：疲れたけど楽しかったです。実行委員・他の参加者からいろいろお世話になりました。必ず来年のリードアジアを知り合いの中国留学生におすすめします。

リードアジアのおかげで、いくつかの大手企業に訪問できて、また、多くの人と出会って、本当によかったです。本音大会や料理大会や懇親会などのイベントで、教科書にない日本のことをもっと知ることができました。これからも頑張って勉強して、中日の間の文化の壁を乗り越え、誤解や偏見をなくしたいです。



沈忻瑶
上海財經大學
外國語學院 2 年生



劉朗昆
華東理工大學
外國語學院 2 年

この九日間大変嬉しかったです。九日間、オリセンにいたのにすでに懐かしい気持ちを持っております。朝早く起きて食堂に急ぎ、電車に乗り、三日目からの企業訪問、とても珍しい機会と思います。毎日の企業も豊富な内容を含めているので楽しかったです。感謝の気持ちを持っています。実行委員は超かっこいい！みんな優しくて、いろいろお世話になりました！迷惑をかけて本当にすみませんでした。リードアジア 2019 プログラムは人生の貴重な経験です。ありがとうございました！

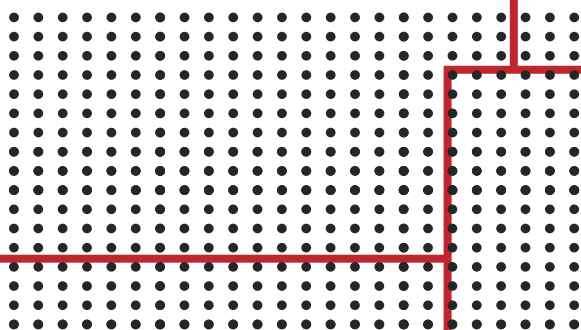
リードアジア 2019、最初はこんなに多くの友達ができるなんて思わなかった。壁のない、話したいことなんでも話せる、聞き手と feedback のできる方がきちんといる、味方として協力し企業訪問し発表も準備するなどは、このリードアジア プログラムの大きな魅力だと思います。これからもずっと続けてほしい！これからも参加したい (OG として)。
もっともっと、日本人学生と日本に留学している中国人学生と話したい！
リードアジア大好き



王嘉璇
西安交通大學
外國語學院 4 年生



3-2. 参加者アンケート結果



1. 応募倍率

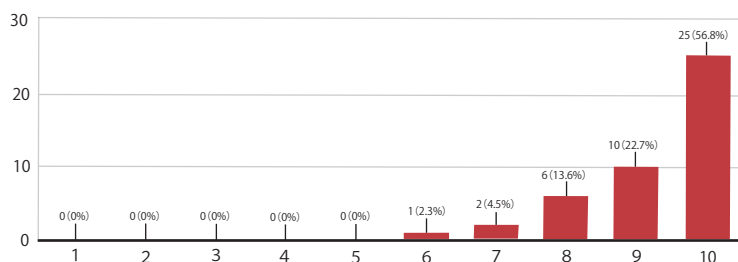
日本人学生：3.28 倍
中国人留学生：2 倍
中国人本土学生：4 倍

全体倍率：3.06 倍

2. 満足度

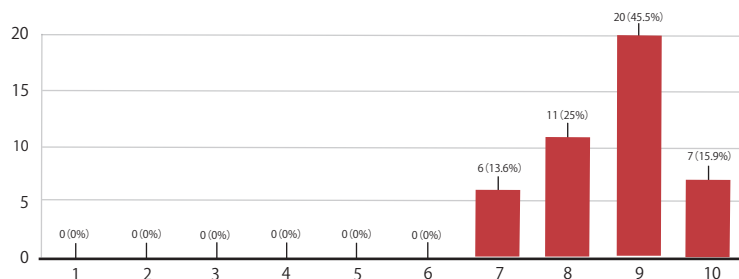
2-1 全体の満足度（10 まで）：

大変満足している（9-10） 35 人 79.5%
満足している（7-8） 8 人 18.1%
どちらとも言えない（4-6） 1 人 2.3%
あまり満足していない（2-3）：0%
満足していない（1）：0%



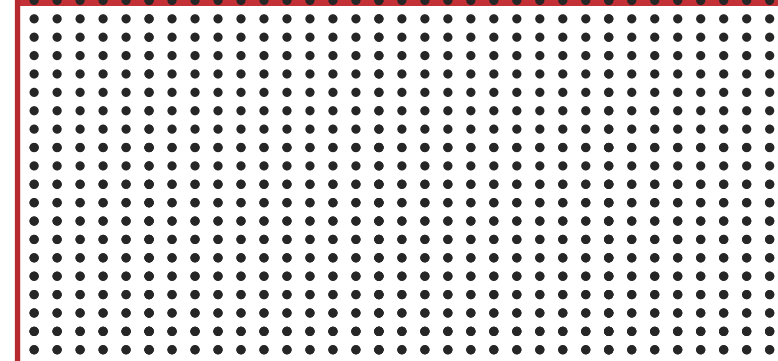
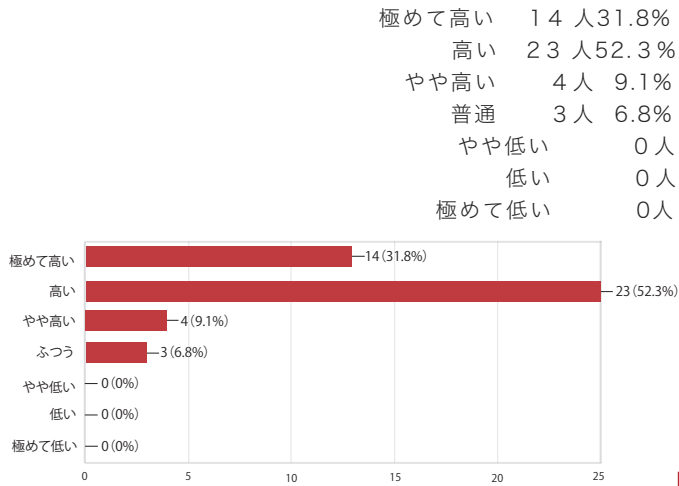
2-2 企業訪問満足度：

大変満足している（9-10） 27 人 61.4%
満足している（7-8） 17 人 38.6%
どちらとも言えない（4-6）：0%
あまり満足していない（2-3）：0%
満足していない（1）：0%



3. 相手国への好感度

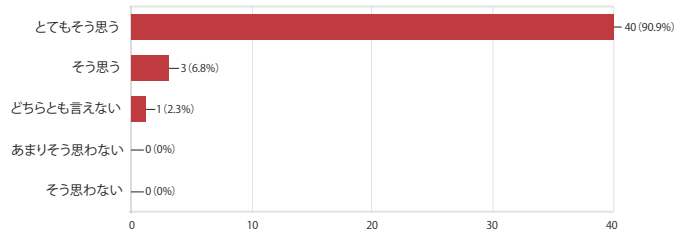
プログラム参加後 【七段評価】：



4. 参加を終えて

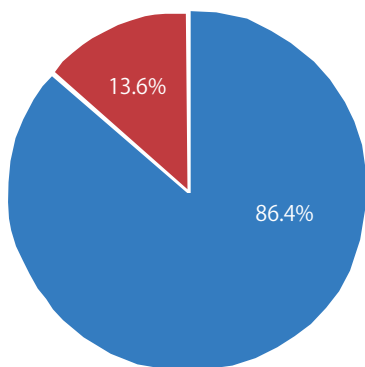
今後も日中交流に何らかの形で関わりたいと思うか：

とてもそう思う	40 人	90.9%
そう思う	3 人	6.8%
どちらとも言えない	1 人	2.3%
そう思わない	0 人	0%



5. 来年もリードアジアを友人に勧めたいですか？

来年もリードアジアを友人に勧めたい：



- 勧めたい
- どちらかという勧めたい
- どちらかという勧めたくない
- 勧めたくない



04 Special thanks

協力企業、機関一覧 (順不同)

株式会社 JTB グローバルマーケティング & トラベル



株式会社 JTB グローバルマーケティング & トラベルは、日本への外国人誘致を目的に 105 年前に 創立された JTB 元来のミッションを受け継ぎ、訪日旅行（インバウンド）専門の旅行会社 として、世界各国からお客様をお迎えしています。

パナソニック株式会社アプライアンス社

アプライアンス社はパナソニックの社内カンパニーとして、家庭からオフィス・店舗にいたる幅広い空間に対応した商品の提供を通じて、人々の豊かで快適な暮らし、快適な社会に貢献する、グローバルトップクラスのアプライアンスカンパニーを目指しています。

外務省



外務省は、国際社会の中で日本の安全と繁栄を確保し、国民の生命と財産を守る仕事をしています。中でも文化交流事業としては、各国・地域政府関係者、有識者、文化人等との交流、留学生交流や青年交流、スポーツ交流などの分野において、多くの取組みを行っており、国境や文化の垣根を越えた人と人との触れ合いを促進しています。

日本電気株式会社



NEC は、ネットワーク技術とコンピューティング技術をあわせ持つ類ないインテグレーターとしてリーダーシップを発揮し、卓越した技術とさまざまな知見やアイデアを融合することで、世界の国々や地域の人々と協奏しながら、明るく希望に満ちた暮らしと社会を実現し、未来につなげていきます。

株式会社ニトリ



ニトリは、「住まいの豊かさを世界の人々に提供する。」というロマン（志）を社員一人ひとりが企業行動の原点として共有しています。そして、社員の力を結集して長期ビジョンの実現に全力を尽くすことを企業活動の指針と位置づけています。ロマンを原点に、ビジョンを実現していくことで、ニトリはお客様をはじめとしたステークホルダーの皆様とともに多様な豊かさを分かち合っていきたいと考えています。

日本放送協会



全国の放送局によるテレビ・ラジオを通じたきめ細かい防災・減災情報の提供などにより地域の安全・安心に貢献していきたいと考えます。また、暮らしに身近な情報や関心の高いテーマを取り上げる番組を充実させ、全国放送では、自然や文化の魅力、それぞれの地域にとって切実な課題を発信するなど、多様性を持った各地の期待に応える放送・サービスを強化します。さらに、NHKの全国ネットワークを使って、各地に共通する地域課題を取材・調査し、解決策を考えるニュースや番組を発信していきます。

株式会社三菱 UFJ 銀行



私たちは、中長期的にめざす姿として「世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ」を掲げています。グローバルに変化する多様なニーズに対して、グループ全員の力で、世界水準のトップクオリティを追求していくこと。お客さまの資産を守り、日本社会と世界経済の健全な成長を支える、最も信頼される頑健な存在であり続けること。多様化・ボーダレス化する社会で、変化へ積極的に対応し、日本はもとより、アジア、そして世界においても選ばれる存在となること、という意味が込められ、全ての活動の指針となっています。

藤田観光株式会社



私たちは創業より、事業を通じ社会に貢献し続ける企業を目指してまいりました。これからも常にお客様のニーズを捉え、「いつも、ありがとうのいちばん近くに」いられるよう、日々愚直に挑戦し続けることが極めて重要だと考えております。2020 年に予定されている東京オリンピック・パラリンピック、そして観光立国に向けた各政策を機会として、観光立国のリーディングカンパニーを目指して、チーム藤田一丸となって新たなステージに向かって挑戦してまいります。

ハウス食品グループ本社株式会社



ハウス食品は「食を通じて、家庭の幸せに役立つ」という企業理念のもと、業界の常識にとらわれることなく、お客様の「家庭の幸せ」を追求し続けている企業です。カレーを『国民食』と呼ばれるまでに押し上げた「バーモントカレー」や、親子で一緒に楽しめる、手作りデザート定番の「フルーチェ」様々な市場を切り開き、お客様に新しい価値を提供し続けてきました。2019 年で、創業 106 年目を迎え、今後も国内のみならず、世界のお客様へ新たな価値を提供できる企業へと成長していくため、挑戦を続けています。

主催団体



日中学生交流連盟
(Japan China Student Frontier Group)

日中学生交流連盟（JCSFG）は、2012年10月に設立されました。2012年は日本と中国にとって国交正常化40周年という節目の年を迎えた一方、尖閣諸島の問題を発端にかつてないほど関係が悪化した年でもあり、現在加盟している団体の中には準備していた活動の内容を変更せざるを得ない団体もありました。そんななか、日本と中国の学生のパイプをより太いものにすべく、日中交流に携わる5つの団体がJCSFGを立ち上げました。

2019年11月現在、「AFPLA 東京大学支部」「OVAL JAPAN」「京英会」「京論壇」「心連心 OB・OG会」「日中学生会議」「日中学生交流団体 freebird」「日本青少年友の会」「紅葉会」「早稲田大学中国語学習会」(50音順)の10団体が加盟しています。各団体の活動はディベートやホームステイ、語学交流やビジネスコンテストなど多岐にわたります。JCSFGは、こうした活動をより活性化させていくためのプラットフォームとしての機能を担っています。今後も加盟団体同士で知恵を出し合い、力を合わせ、日中の学生交流の活性化に取り組んでいきます。

顧問／アドバイザー

◆顧問（敬称略）

谷口誠（元国連大使・桜美林大学北東アジア総合研究所特別顧問）

楊光俊（桜美林大学孔子学院学院長）

瀬口清之（キャンングローバル戦略研究所研究主幹）

◆アドバイザー

森谷幸平（株式会社 WizWe 代表取締役社長）

福住俊男（グローバルマネジメント研究所代表取締役社長）



独立行政法人国際交流基金 日中交流センター
(The Japan Foundation China Center)

独立行政法人国際交流基金は、総合的に国際文化交流を実施する日本で唯一の専門機関です。1972年に外務省所管の特殊法人として設立され、2003年10月に独立行政法人となりました。現在、本部と京都支部、2つの附属機関（日本語国際センター、関西国際センター）、及び海外24か国に開設された25の海外拠点に基づき、外部と連携しつつ、文化芸術交流、海外における日本語教育、日本研究・知的交流を3つの柱として活動しています。

日中交流センターは、日中間の青少年交流を促進するために、2006年4月に国際交流基金に設立されました。日本と中国の将来を担う若者たちが未来を共に創るため、改めてこの絆を大切にし、さらに大きな橋をかけたい…この想いの下、主に3つの事業——次世代を担う中国の高校生を約1年間日本へ招へいする中国高校生長期招へい事業、日中の交流の担い手間のネットワークをつくり広げていく事業、中国の地方都市を中心に日本文化を伝えるとともに交流を行う「ふれあいの場」の設置・運営支援を行う事業——を推進しています。



AFPLA

AFPLA (Asian Future Political Leaders Association) は、政治学に関心のある東アジアの学生が一同に会する国際会議を一年に一度主催しています。東京大学、北京大学、ソウル大学校、復旦大学、台湾国立大学の学生が、一緒に学び考え、濃い議論を経て共同発表を行うことで、学問的な理解を深め、生涯の友を得ることを目指しています。2019年は北京で開催し、「互」、たがをテーマに議論しました。



OVAL JAPAN

OVAL (Our Vision for Asian Leadership) は、「東アジア発のグローバルリーダーの輩出」をミッションに日中韓の三か国による、英語を用いた国際ビジネスコンテストを運営しています。実際に、日本・中国・韓国の学生が1人ずつ、3人1組となって計30チームでビジネスプランを競い合います。三か国それぞれに支部を持ち、毎年日中韓いずれかの国でコンテストを行うのが特徴で、2019年夏には北京で開催しました。



京英会

京英会は、「日中の草の根交流を学生間から地域・社会全体に広げていく」ことを目的に、日中学生間の交流活動を企画・運営しています。毎年夏には、日中の学生がともに、東京・鯖江（福井県）・北京に滞在し、ディスカッション・街頭インタビュー・地方見学・日中文化体験・ホームステイなどを行います。2018年は「共同生活」をテーマとし、お互いの国籍を超えた相互理解を目指し、日本語・中国語で議論を行いました。



京論壇

京論壇は、東京大学と北京大学による日中学生討論団体であり、両大学の学生が、互いの国に1週間ずつ滞在し、日中間に横たわる様々な問題について英語で本音をぶつけ合い徹底的に議論します。2018年度は「多文化共生」「サイバースペースへの統制」「競争と正義」の3つをテーマとしました。また、その成果は、報告会やシンポジウムの開催出版活動、学校訪問などを通じて、積極的に社会に向けて発信しています。



日中学生会議

日中学生会議は毎年8月の約2週間半、日中両国の学生が一堂に会し、「対話」を基本に討論や共同生活を通じて、日中両国の学生の相互理解を深めています。学生発の団体として、日中友好の実現に向けて活動しています。また、2019年で33周年を迎え、長い歴史の中で多くの優秀なOBOGを輩出しています。開催地は日本と中国の隔年であり、2019年は広島、奈良、東京の3都市を訪れました。



日中学生交流団体 freebird

freebirdは『日中の学生の相互理解の創出の場』を目的として2005年に設立された団体です。現在は関東、関西、北京、上海と日本に2箇所、中国に2箇所と合計で4箇所の支部があり、支部ごとに様々なイベント、勉強会、交流会、スポーツ会、観光地散策を行なっています。日本と中華圏の学生が交流することで両国の文化や価値観の違いを理解することやイベントを通して学ぶ国際交流の意味も込められています。2018年夏にはCHINATRIP2018という日中各地から集結した大学生による10日間の合宿イベントを開催しました。



早稲田大学中国語学習会

早稲田大学中国語学習会は、通称「チャイ研」と呼ばれる、1972年から続く元祖中国語学習サークルです。およそ100人規模で初心者からネイティブの留学生まで幅広い中国語レベルの学生が参加しています。19年3月に香港・澳門合宿、10月に慶應大学とのスピーチコンテストを行い、20年2月のHSKアフレコンテストでは2連覇を飾りました。単に語学学習に留まらず、近年、交流の重要性が増している中国の「玄関口」として活動を続けています。



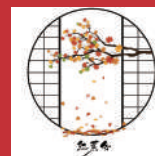
心連心 OB・OG 会

「心連心」は、未来志向の日中関係を築く礎として、より深い青少年交流を実現するため、日中両政府間の合意に基づく初めての長期招へい事業として2006年度より開始され、国際交流基金が主催しています。招へい生たちは、9月初旬から翌年7月下旬まで、日本各地に分かれ、ホームステイ先や学生寮に滞在しながら、授業・部活・学校行事など現地の高校生たちと同様の生活を送ります。「心と心をつなぐ」をモットーに、「心連心」というプログラム名称を用いています。



日本青少年中国語友の会

日本青少年中国語友の会は、桜美林大学孔子学院の附属団体です。中国語を学ぶ青少年（15歳から35歳）が主体となり、桜美林大学孔子学院で開催されるイベントなどに協力しつつ、日中交流・日中友好に貢献しています。



紅葉会

早稲田大学紅葉会は早稲田大学政治経済学部で発足された、中国人留学生を主体とする団体です。活動内容として、様々なイベントを企画することによって留学生と日本人学生が接触する機会を増やしたり、中国人留学生や他の学生たちの大学生活全般をサポートしたりするという理念を掲げています。

告知協賛

Weibo

@日語Radio中村先生
@厦門中日交流会館
@小喬是不是美女
@中村教室 寧寧先生

中国側広報にお力いただき誠にありがとうございました。

06 Executive committee

学生実行委員紹介



古作優美
実行委員長

お茶の水女子大学
文教育学部4年

学生が中心となって1から作り上げていく本プログラムは、大変なことばかりではありましたが、優秀な実行委員メンバーと、ご協力いただいた沢山の方々、そして意欲に溢れた参加者の皆さん、全ての方のおかげで無事成功させることができました。本当にありがとうございます。

私がこのプログラムの参加者として参加した3年前の動機は本当に些細なものでした。しかし、リードアジアでなければ出会わなかった、多様な経験と溢れる意欲を持った沢山の仲間と出会えることができました。そして、実行委員では2年間、生み出す側として、リードアジアでなければ出会わなかった絆が生まれる瞬間に立ち会えてきたことに大変嬉しく思います。

これまでリードアジアを生み出し、繋げてきた先輩方に深く感謝するとともに、リードアジアがこれからも続き、さらなる「絆」を生み出し、日中関係をも変えていくことを願って、ずっと応援しています。

リードアジアに携わるのは今年で4年目になりました。私が北京大学に留学したきっかけも、まさに3年前のリードアジア2016への参加でした。1年生の時に素敵な同期や先輩との交流を通し沢山の刺激を受けて中国についてより深く理解したいと強く思うようになり、それが中国留学をするという目標に繋がりました。そして留学を終え目標を達成した自分に次は何が出来るのかを考えた時に思いついたのが今度は実行委員として日中交流の場を創る立場に回ることです。このリードアジアというプログラムは人を変える力があると信じ、少しでも多くの人に日中交流を通して良い影響を与えたいという信念で8泊9日間を作り上げました。その結果、実行委員メンバーの仲間にも参加者にも恵まれ、本当によいプログラムになったと思います。このプログラムが次の誰かの成長の原点となれば幸いです。協力団体・企業の皆様、参加者の皆さん、そして実行委員のメンバーのみなさん本当にありがとうございました。



金本嘉裕
副実行委員長 / 会計

早稲田大学法学部4年



秋葉大暉
副実行委員長

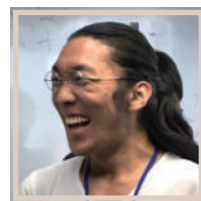
早稲田大学法学部4年

「30年後に続く、9日間の出会い」をコンセプトに掲げたリードアジア2019。7回目の開催となった今回も国際交流基金様を含め多くの企業様のお力添えもあり無事完走することができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

今回の2019プログラムで掲げた「30年後に続く、9日間の出会い」というコンセプトは参加者全員に30年後たとえどのような日中関係になっていても個々に関係を持続してほしいという思いから付けさせていただきました。今でさえ日中間では多くの問題が山積みです。とりわけ歴史問題は幼少期の学校教育は互いの国のことをあまり知らない段階で行われ、そこから互いの国を好きになれないと言ったこともよく聞く話となっています。

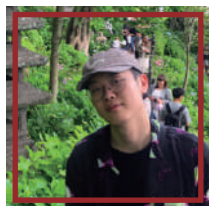
このように時に相手国の人に偏見さえ持ってしまう私たち大学生が「ビジネス」を切り口に寝食を共に真剣にぶつかり合い、手を取り合って成果を出す姿は他の企画にはないものだとして改めて確信させられました。日中両国を正しい見方で見れる人材がリードアジアファミリーから1人でも多く出て未来の日中関係に大きく寄与していくことを切に願っています。

リードアジアは日本企業を知るためにも相手国の若者と交流を図るためにも非常に貴重な機会だと思います。私は参加者として去年のリードアジアに参加させていただいて、初めてビジネスに関して日本の学生と議論できました。今年は組織者としてですが、去年も訪問させて頂いた企業の方々から新業務の話や聞かせたりして、感動しました。「学生のうちに企業・ビジネスを知る」などと今時よく聞かれますが、それだけでは足りないとも思います。企業・ビジネスを知ると同時に、自分の強みと弱みをも、自分と同じビジョンを持つ仲間の考え方も知らなければなりません。そしてこれをもとに現実の課題解決の姿勢を身に着けることこそが私にとってリードアジアの一番の魅力です。



汪浩岩
中国側参加者対応

早稲田大学政治経済学部4年



劉氷森
中国側広報 / 参加者対応

東京大学教養学部文科二類2年

去年、まだ大学入ったばかりの私は先輩の紹介でリードアジアを応募しました。そこで、優秀な仲間たちと出会い、朝から晩まで素直に考えや意見のぶつけ合えた9日間を過ごしました。そういった素敵な同期や先輩から刺激を大変受けて、想像できないほど成長しました。自分の恵まれたこのプログラムを、ぜひより多くの学生にも知ってもらいたいと思い、今年実行委員をやらせていただきました。一番年下であった私はまだ力が足りないところが多くあり、実際の準備期間中でも大変でしたが、他の実行委員の皆さんの支えや優秀な参加者のおかげで素晴らしいプログラムができたと思いました。一緒に一年間走り回ってきた実行委員たち、プログラムに協力いただいた企業様や関係者の方々、そして熱い思いの持った参加者たちに心から感謝しています。本当にありがとうございました。



馬焜茗

中国側広報 / 参加者対応

千葉大学工学部
メディカルシステム工学科4年

「これが世界への入り口か！」高校で初めてできた友達が中国語で自己紹介をしてきた時に感じた世界への道標。そんな出来事をきっかけに、高校、大学生活では2週間の海外研修や1年の留学を通して色々な世界を見てきました。高校生活から留学中まで、どんな時も自分の成長を支えてきてくれた中国の人々。日本に帰国したら、何でもいいからまた中国と関わる機会を作りたいと思っていた時に紹介されたのがリードアジアでした。8月が終わった後にも強固に続く交友関係。残り少ない大学生活をこのプログラムに費やしたいと思い、実行委員に立候補しました。しかし、この1年間には就職活動もあり、ミーティングに参加できない時期などもありました。プログラムの成功を支えてくれた実行委員には本当に感謝しています。終わった今、やはり感じるリードアジアや中国の魅力。これからもこのプログラムが続いていくことを切に願っています。



ターン永里名ローリス

日本側参加者側対応

共立女子大学
建築デザイン学科建築コース3年

大学1年生の夏、参加者のひとりだった私は「リードアジア」がこんなにも大きな存在になるとは全く想像もしていませんでした。自分の意見を発信することが苦手、語学が堪能なわけではない、まして中国にゆかりがあるわけでもない。そんな私はリードアジアを通して出会った仲間や経験から強い衝撃を受け、多くのことを学びました。それは運営として携わらせて頂いた昨年も今年も変わりません。当時私と接して下さった先輩方にはまだまだ届きませんが、最年少の1年生から参加者のほとんどが後輩にあたる4年生へと学年が変化し、「受け取る側」から「与える側」へと立場が変わる中での経験は自分を大きく成長させてくれたと同時にかけがえのない思い出となりました。今後も、リードアジアプログラムを日中交流に接点のない学生を虜にしてしまう魅力の詰まったものへと進化させ、この輪を広げていってください。いつまでも応援しています！



高橋佑太

日本側参加者側対応

早稲田大学
法学部法律学科4年

昨年度リードアジアに参加して、企業訪問や優秀な学生同士と交流を通じて、良い刺激を受け、日中の未来や自分自身について考え直すきっかけとなりました。ぜひより多くの学生にもこのプログラムのことを知ってもらい、参加してもらいたいと思い、今年度実行委員として関わることにしました。就活との両立が厳しい時もありましたが、実行委員メンバー全員で協力しながら困難を乗り越え、最後は非常に貴重な思い出を皆んなと作ることができました。それが実現できたのも多くの方々のご支援とご協力によるものだと思心から感謝しております。プログラムを二回経験し、日中の若者の交流意欲の高さに大変驚きました。今後もぜひ日中の架け橋となり、微力でありながら日中両国の交流に貢献していきたいと思っています。

リードアジアはグローバルリーダーへの第一歩だとしみじみ感じます。世の中では「リーダーシップ」、「コミュニケーション能力」、「論理的思考力」などの言葉が溢れんばかりです。ところで、それらの指す真意はいみじくもゴール志向のリーダー行動だと実行委員会の全員のお世話になって始めて理解できました。すなわち、未来像を掲げ、先んじて計画を立て、皆に伝えて実現させることです。リードアジアなら幕の表裏問わず、学生にこの行動を引き起こしてもらいます。日中の学生はここで不慣れなビジネス課題に直面し、正解のない世界で国境を越えて解答を模索し続けます。そのために考えて交流し、そしてさらに多くの人々にその解答を分かせようとしています。この姿はグローバルリーダー仕事ぶりの他になりません。この喜ばしき交流と成長の場を広める目的に、振り返って私も一年間実行委員会で大いに成長ができました。協力団体・企業の皆様、参加者の皆さん、そして実行委員のメンバーのみなさんに感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



山際東悟

渉外

上智大学理工学部
機能創造理工学科4年

今回実行委員を務めさせていただき去年に続き2年目となります。参加者として参加した大学1年生、何も分からないまま興味本位で立候補した2年生、今年3年生になってからは明確な理由で実行委員に立候補することができました。一番の理由としては今年の参加者の皆さんに新しい刺激、興味の出るもののジャンルを増やして欲しいと思ったからです。私が参加者の時に刺激をもらったように、留学についてや就職について自分の知らなかったことを多く教えて頂いたり、体験したことなかったグループディスカッションの進め方、知識だけではなく、アドバイスを多く頂きました。そのことにより今では様々なものに興味を持てるようになりました。このように、今まで興味のなかったものに挑戦する、分からないものを知ろうとする。それを繰り返すことで自分の成長へとつなげていけることを願っています。

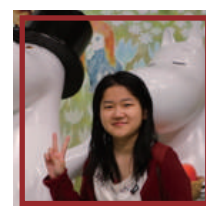


中塚咲希

渉外

法政大学法学部
法律学科4年

今年は参加者が非常に優秀でした。質疑応答の際に非常に多くの手が上がり、質問が時間内に収まらなかったことが多々ありました。単純なことです、こういった細かいところで意欲がはっきりと感じ取れます。全員が積極的に学びを得ようとした結果、非常に実りのある企業訪問になったと思います。私も助けられてばかりで、実行委員としてもっとリードできたらよかったと力の及ばなさを痛感するところです。同時に、企業の方々の熱量も感じました。今まで以上に中国人材を積極的に採用しようとしている意思が伝わり、日中の距離感や中国の世界における存在感の変化を感じ取れました。今年のキャッチコピーが「30年後」に続く出会いを作るというものですが、この経験は30年後の自分に確実に影響を与えていると思えるほど強く、深く記憶に残る体験だったと確かに感じられます。私たちの活動を捧げて下さった方々に、改めて深く感謝を申し上げます。



周心奕

日本側参加者対応

東京大学経済学研究科
修士2年

日中学生交流連盟では、リードアジア 2020 プログラム（2021 年2月に実施予定）にご協力いただける企業を募集しております。

ご協力形態の例：

- ① 学生の受け入れ（企業訪問・ご講演）
- ② 協賛金の提供
- ③ 参加学生募集の際の広報活動

企業訪問については、オフィスや施設の見学、企業や業界についてのご講演、学生の議論活動のテーマの提供といった形態でのご協力を計画させて頂いております。

ご検討いただける企業様は下記連絡先までご連絡下さい。

日中学生交流連盟、及び連盟加盟団体では協賛金をお受けしております。

（協賛金の用途はご指定いただくことが可能です）

お受けした協賛金は、連盟が責任を持って管理し、使途をご報告させていただきます。

日中学生交流連盟及び加盟団体一同、日中関係の一層の発展に向けて励んでまいりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、協賛して頂いた場合には下記の特典を進呈いたします。

- ① 年次報告書の送付
- ② 連盟、及び加盟団体の各媒体にて協力形態を明記
- ③ 連盟、及び加盟団体にて広告の掲載

※詳しくは日中学生交流連盟までお問い合わせください。



日中学生交流連盟
Japan China Student Frontier Group

Email: jcsf.frontier@gmail.com
rleadasia2020@googlegroups.com

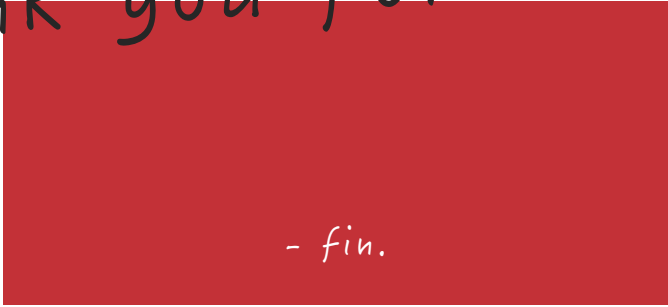
Facebook: <https://www.facebook.com/jcsf.frontier>

国際交流基金日中交流センター
The Japan Foundation China Center

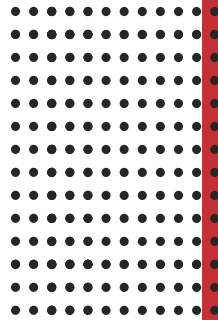
TEL: 03-5369-6074
HP: <https://www.chinacenter.jp/>



Thank you for reading



- fin.



R
LEAD ASEA 2019

- 30 年後に続く、 9 日間の出会い -